

## 国際連語論学会 11 月例会 (2017 年度)

日時：2017 年 11 月 11 日 (土) 午後 4:00~6:00

会場：大東文化会館 K-403 (東武東上線東武練馬駅下車徒歩 4 分)

ヒト：張曉東 (中国・浙江工商大学日本語科講師)

題名：身体語彙を含んだ[X が(は)、Y に、Z を、V]構文について

—[Y]または[Z]が「手」である場合—

**概要：**日本語には、「山田が彼女にお金を払う、正夫はお菓子に手をつける、警護室長が拳銃をホルスターにしまう、ローレルは両手を拳に握る」のような[X が(は)][Y に][Z を][V]からなる[X が(は)、Y に、Z を、V]構文を用いて作る文がたくさん存在し、様々な意味を表している。このなかには、[Y]または[Z]が身体語彙(手、首、顔など)で、「X が Y に顔を出す、X が Z を手に入れる」といった慣用的な表現を構成するものも含まれている。

[X が(は)、Y に、Z を、V]構文をめぐって、これまで動詞[V]に重きをおく格文法アプローチや連語論アプローチの研究が主であった。本発表は、[X が(は)、Y に、Z を、V]構文の一事例、身体語彙「手」を含んだ[X が(は)Y に Z<sub>手</sub>を V]/[X が(は)Z<sub>手</sub>を Y に V]を含む構文と[X が(は)Z を Y<sub>手</sub>に V]/[X が(は)Y<sub>手</sub>に Z を V]を含む構文に焦点をあて、認知言語学の視点から、両構文を考察分析し、以下 4 点の究明を目的とする。

- ①どんな構文タイプが存在するのか。
- ②構文タイプ間の関連性がどうなっているのか。
- ③構文実例に見られる慣用的な表現と一般的な連語の関連性がどうなっているのか。
- ④構文タイプと[Y に]、[Z を]の語順との関連性がどうなっているのか。